

エコアクション21

環境経営レポート

2023.6.1～2024.5.31



2024年7月1日作成

株式会社 鹿 熊 組

目 次

1. 環境経営方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境経営目標(中長期)
5. 環境経営活動の取組結果と評価
 - 1) 環境経営への取り組み
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

環境経営方針

【環境経営に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で
様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、
環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした
持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取組んでまいります。

【環境経営方針】

- 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに
取組みます。
- 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。
定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

制定日 2011年4月20日
改定日 2024年4月1日

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 聰

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 智

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀町1631番地3号

機材センター 長野県長野市真島町川合2036番地61号

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 管理部 鹿熊 弘

環境管理担当者 管理部 鹿熊 弘
土木部 田中栄一
建築部 内川隆明

環境管理事務局 管理部 黒岩拓未

連絡先 TEL 026-235-3311
FAX 026-235-3315
HP <http://www/kakumagumi.com>
E-mail soumu.info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

5) 事業規模

完成工事高

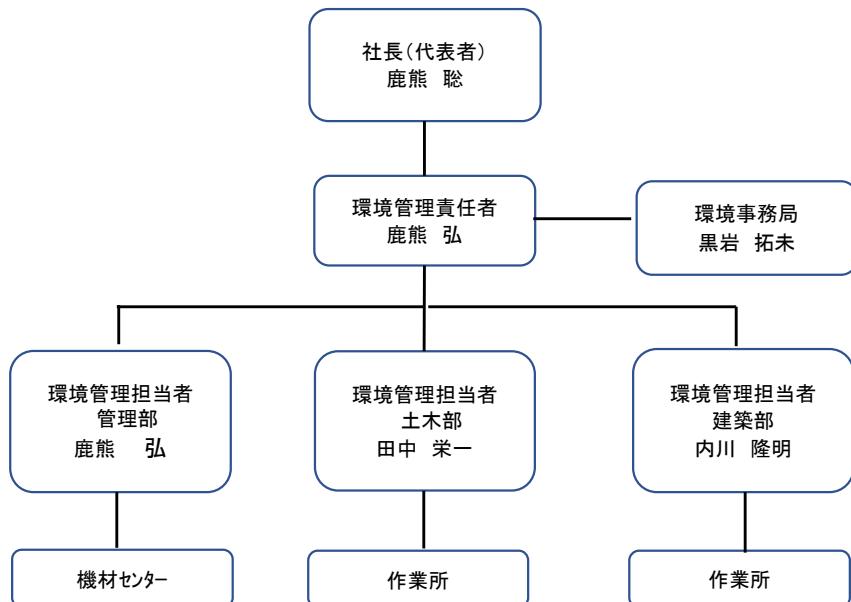
62期	4,055百万円	(2020年6月1日～2021年5月31日)
63期	1,743百万円	(2021年6月1日～2022年5月31日)
64期	6,191百万円	(2022年6月1日～2023年5月31日)
65期	1,560百万円	(2023年6月1日～2024年5月31日)

従業員数 86人

本社床面積 1132.1m²

機材センター床面積 5963.6m²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境経営目標（中長期）

・ 中部電力㈱ 2019度 二酸化炭素調整後排出係数 0.426kg-CO₂/kWhを使用

項目	単位	期間 2022.6～2023.5	期間 2023.6～2024.5	期間 2024.6～2025.5	期間 2025.6～2026.5
二酸化炭素削減	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	562,602	556,976	554,163
		(%)	100%	99%	98.5%
	電力	kWh	274,056	271,315	269,945
		kg-CO ₂	126,614	125,348	124,715
	ガソリン	ℓ	52,319	51,795	51,534
		kg-CO ₂	121,378	120,164	119,557
	軽油	ℓ	98,477	97,493	97,000
		kg-CO ₂	254,072	251,531	250,261
	灯油	ℓ	14,948	14,799	14,724
		kg-CO ₂	37,221	36,849	36,663
	都市ガス	m ³	10,795	10,687	10,633
		kg-CO ₂	23,317	23,084	22,968
一般廃棄物	kg	7,316	7,243	7,206	7,098
産業廃棄物	t	6,665	6,598	6,565	6,466
水使用量	m ³	2,460	2,411	2,361	2,312
製品への環境配慮	環境配慮型建設資材、工法の提案・実施		提案実施50%以上		
地域環境貢献	会社・現場周辺の清掃		毎週1回以上		

中長期の目標と計画

項目		目標達成に向けての計画・施策	中期計画
二酸化炭素削減	CO2排出量	1.空調温度の適正化(冷房25度、暖房20度) 2.時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等、休日、夜間) 3.効率化による残業・休日出勤削減 4.空間利用(在室人員のまとめ)の工夫 5.省電設定、省電機器の導入の追加検討 6.社内ルールの遵守(制限・約束)	1.前年手段の継続・改善 2.前年検討事項の実施への取組 3.社員行動の不良部の改善 4.残業・休日出勤の削減 5.更なる向上のための手順改善 6.社内ルールの遵守
	電力	(通勤・移動車両) 1.エコドライブの導入 2.日常点検の励行 3.相乗りの推進 4.運行経路の適正化 5.省エネ車両への交換	1.前年手段の継続・改善 2.重点事項の推進 (重点事項) •エコドライブの励行 •省エネ車両への交換の推進
	ガソリン	(重機械) 1.アイドリング時間の短縮 2.休憩時間のエンジンストップ 3.過剰負荷の軽減	•関係会社の協力による適性機械の使用促進 •作業手順の適性化による過剰負荷の軽減 •作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 •省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 •新規改善策の検討
	軽油	1.アイドリング時間の短縮 2.休憩時間のエンジンストップ 3.過剰負荷の軽減	
	灯油	(輸送)1.共積みの励行 2.配送経路の適正化・集約化	
	都市ガス	(設備)1.定期点検の励行	
一般廃棄物		(全般)1.分別の徹底・混合廃棄物の削減 2.分別ボックス・スペースの確保 3.周知・徹底 (減量)1.データベース化の促進 2.書類の簡素化の推進 3.両面コピーの促進 4.ミスコピー・ミス印刷の減量	1.前年手段の継続 2.重点事項の推進 (重点) •不良者の発見と指導・周知・徹底・整理整頓 •工夫及び意識改革・手順の改善(社内資料) •保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	産業廃棄物	(リサイクル促進) 1.意識の高揚 2.廃棄物に関する知識の向上 3.本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進	(リサイクル促進) 1.意識の高揚のための再教育
水使用量		(本社) 1.自動給水装置の水量調整 2.節水の励行の周知・徹底のための社員教育 (作業所・機材) 1.用水利用の促進 2.雨水利用の促進	1.前年度の継続 (作業所) 1.洗車回数の制限 2.循環型の導入等による再利用の促進
	製品への環境配慮	1.設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成 2.上記について提案の実施 3.熱意を持った働きかけ 4.官庁・民間工事(環境配慮)創意工夫・ボランティア活動等の実施	1.前年手段の継続・改善
地域環境貢献		1.低化学物質の建材・材料の使用 2.現場で化学物質を使用する際は、使用量・使用場所、保管場所等を明確化 3.現場で使用する化学物質は、SDS又はメーカーの取り扱いに従って適正に管理 4.化学物質リスクアセスメントの導入	1.前年手段の継続・改善 2.低化学物質の建材・材料の提案 3.化学物質リスクアセスメントの導入 4.有害性の化学物質の表示及びSDSの内容を教育・周知
	PRTRの取り扱い		

5. 環境経営活動の取組結果と評価

1) 環境経営活動の取組結果

※排出係数62期～65期は0.426で計算

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	80,728	80,324	85,076	105.9%
		C02換算値	kg-CO2	34,390	34,218	36,242	
	作業所	使用量	kwh	137,125	136,439	127,743	93.6%
		C02換算値	kg-CO2	58,415	58,123	54,419	
	合計	C02換算値	kg-CO2	92,805	92,341	90,661	98.2%

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
燃料の削減	ガソリン	本社・機材	リットル	64,697	64,373	66,033	102.6%
		C02換算値	kg-CO2	150,096	149,346	153,196	
	作業所	使用量	リットル	8,643	8,600	8,783	102.1%
		C02換算値	kg-CO2	20,052	19,952	20,378	
	合計	C02換算値	kg-CO2	170,148	169,297	173,574	102.5%
軽油	本社・機材	使用量	リットル	240	239	343	143.7%
		C02換算値	kg-CO2	619	616	886	
	作業所	使用量	リットル	75,695	75,316	67,812	90.0%
		C02換算値	kg-CO2	195,292	194,315	174,956	
	合計	C02換算値	kg-CO2	195,911	194,932	175,842	90.2%
灯油	本社・機材	使用量	リットル	1,003	998	1,662	166.5%
		C02換算値	kg-CO2	2,497	2,485	4,138	
	作業所	使用量	リットル	15,139	15,063	13,849	91.9%
		C02換算値	kg-CO2	37,695	37,507	34,483	
	合計	C02換算値	kg-CO2	40,193	39,992	38,621	96.6%
都市ガス	本社・機材	使用量	m3	11,299	11,243	2,659	
		C02換算値	kg-CO2	25,197	25,071	5,930	23.7%
							○例年並みの使用量である。

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
CO2排出量の削減	本社・機材	C02換算値	kg-CO2	212,800	211,736	200,392	94.6%
	作業所	C02換算値	kg-CO2	311,454	309,897	284,235	91.7%
	合計	C02換算値	kg-CO2	524,254	521,633	484,627	92.9%

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
水使用量の削減	本社・機材	使用量	m3	1,266	1,241	465	37.5%
	作業所	使用量	m3	538	527	2,339	443.6%
	合計	使用量	m3	1,804	1,768	2,804	158.6%

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
水道用水量の削減	水道・下水	本社・機材	使用量	1,266	1,241	465	37.5%
	水道	作業所	使用量	538	527	2,339	443.6%
	合計	使用量	m3	1,804	1,768	2,804	158.6%

項目	区分	管理種別	単位	2022.6～2023.5		対目標比率	活動評価と次年度の活動
				64期実績(昨年)	65期目標		
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	コピー用紙	使用量	kg	4,668	4,645	4,656
	産業廃棄物	全体量	t	10,494	10,442	4,556	100.2%
		再生不可率	%	4.83%	0.39%	4.83%	44%
							○コピー用紙の使用量の削減に成功した。引き続き削減に力を入れていく。 ○産業廃棄物については工事内容によって波が大きくなるため、比較が非常に難しい。しかし、できる限りの削減をし、目標に近づけていきたい。



鹿熊組エコアクションへのその他取り組み



除雪作業の様子

現場周辺清掃の様子



社内での取り組み
分別の徹底

ソーラー発電を利用し
自然エネルギーの活用



地下水利用し
水の使用の抑制

環境配慮型発電機の使用により油
流出防止の実施

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024年7月1日

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等) ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニュフェスト発行、管理 ・マニュフェスト保管(5年間) ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月) ・車両への表示 	遵守 違反なし
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出 	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> 建設帰化に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守 	遵守 違反なし
フロン排出抑制法	本社社屋ガスヒートポンプ解体工事(フロン抜き取り)	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易点検(3か月・1回以上) ・定期点検(3年以内・1回以上) ・処分書類確認 	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	<ul style="list-style-type: none"> 石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底 	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	<ul style="list-style-type: none"> 工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着装 	遵守 違反なし
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	<ul style="list-style-type: none"> ・規制適合車の使用 	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等) 	遵守 違反なし

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この11年発生しておりません。

7. 代表者の評価と見直し

当社が変化の激しい天候や環境への配慮と持続可能社会実現のために本認証を取得したのが2014年の2月でした。10年の時がすぎ、様々な技術的な進歩もあり、各作業所においての環境負荷の低減へ向けての取り組みも工夫と改善の繰り返しの中で、大変充実してきています。

今期の評価としては以下の通りです。

(電力) 総量としては減となっているが、再生エネルギーへのプラン切替を進めることができれば、本社機材の使用量が0となることで、概ね30%～40%の排出量の削減となる。今期については電気料金等の値上がりが続いていたこともあり、契約変更を進めることは残念ながらかなわなかった。

(燃料使用量) 燃料関連については当社の車両保有数を考えるとガソリンの使用量を特に注目しています。今期は昨年度に比して若干使用量が増えていますが、原因は遠隔地勤務者の増加にありますが、エコカーの導入台数の増加により月当たりの増加量は100L超というところで納められました。今後も計画的に車両の入れ替えを進め、作業所の距離による使用量増を吸収できるよう図ってまいります。

(総CO₂排出量) 64期に比較すると約7%の削減となり、目標としている0.5%削減を大幅に上回ることとなった。満足すべき結果ではあるのですが、65期の工事施工状況を鑑みると、繁忙期の波が下半期に集中しているため、66期については増となりうるため油断はできないものである。

(水資源使用量) 解体工事等、水を多量に使用する工事が集中した結果であり、変動が大きいため無駄な使用を控える、節水の意識について指導を継続する。

(産業廃棄物) 混合廃棄物の減量がなかなか進んでいない。作業所での意識は非常に高いものになっているにも関わらず減量につながらず悩みが深いところである。今後も粘り強く取り組んでいく。

(総評) 環境への配慮、持続可能社会実現への取り組みの重要性については、時間はかかったが全社員が認識するところとなっている。

当社の事業の特性上使用量の変化がとくに大きいところもあるが、固定となっている施設については大きな変化がないため、一定の評価はできると考えている。

そういう取組継続の中で、施設の不具合を早期発見したこともあり、限りある資源の使用量削減とCO₂排出量削減につながる取り組みを感じている。

今期の中で取り組む予定であった再生資源エネルギーの活用による、CO₂排出量の大幅な削減を次年度の目標とし、数年以内の切替準備を進めていきたいと考えている。

令和6年7月1日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聰